



## ソリューション概要

### ○お客様プロフィール

1880年に東京法学社として誕生して以来、約130年の歴史を誇る法政大学 (<http://www.hosei.ac.jp/>)。現在では、15学部、14大学院研究科、3専門職大学院を擁する総合大学となっています。社会の進歩を担う創造的人材、「自立型人材」を育成することを使命に、学生のキャリア育成プロセスを全面的に支援し、社会の進歩に貢献する人材を輩出し続けています。

### ○ソフトウェアとサービス

Microsoft® Office Excel®  
 Microsoft® Office SharePoint® Server  
 –PerformancePoint® Services for SharePoint®  
 Microsoft® SQL Server®  
 Microsoft® Windows Server®

### ○メリット

- パフォーマンス管理に必須なデータ分析、スコアカード作成、レポート作成など、すべての機能を網羅
- Excelをクライアントにした操作性の高いパフォーマンス分析環境
- ダッシュボードによる直観的でわかりやすいユーザーインターフェイスの実現
- クライアントからサーバー製品までシームレスなソリューションを実現

### ○ユーザーコメント

「大学経営の立場で日常的に必要な情報に対し、簡単にアクセスできるメリットは非常に大きいと考えます。たとえば、入学者について今年は何の都道府県からの受験者が多いか、どの高校の受験者が多いか、指定校推薦の状況はどうか、など大学全体としての戦略立案に役立つ情報に、自分のパソコンからダイレクトにアクセスできることは、経営を考える上でも大きな利点となります」。

法政大学  
 常務理事 法学部教授  
 浜村 彰氏

## 教学改革の一環として大学の「見える化」に取り組み、システム構築後の“検証→修正”が容易なOffice SharePoint Serverを利用して、バランス・スコアカードをいち早く導入

「進取の気象をもって法律の運用を担い、社会を開く高度な法技術者を養成する」という目的を掲げ、1880年に東京法学社として誕生して以来、約130年の歴史を誇る法政大学。現在では、15学部、14大学院研究科、3専門職大学院を擁する総合大学となっています。同学では、教学改革の一環として自主的な点検改善活動が必須となったことを機に、大学の「見える化」を実現するためのシステム基盤の検討を開始。長期にわたる検討期間を経て選定されたのは、バランス・スコアカードによるパフォーマンス分析機能を提供するOffice SharePoint Server、Office Excel、SQL Serverなどのマイクロソフト製品でした。

### ■ 導入の背景とねらい

#### 教学改革の一環として自主的な点検改善活動が必須に

社会の進歩を担う創造的人材、「自立型人材」を育成することを使命に、学生のキャリア育成プロセスを全面的に支援し、社会の進歩に貢献する人材を輩出し続ける法政大学。1999年までの6学部体制から、その後、学部、学科の増設を行い、2009年4月現在では、15学部、35学科の規模になっています。近年、大学における自主点検評価活動や改善活動の必要性が叫ばれる中、法政大学でも、これらの取り組みが開始されました。

大学教育のあり方と、その評価のための組織設置の経緯について、法政大学 常務理事 法学部教授の浜村 彰氏は次のように話します。

「多様なカリキュラムの中で、学生をどのように育成し、社会の中で活躍できる人材として輩出するかが問われています。また、一方では、少子化の進行など大学を取り巻く環境も厳しさを増しています。このような状況を踏まえ、教学改革の一環としてさまざまな施策を打ちながら、その結果や効果をしっかり評価することが必要となっています。このため、法政大学自己点検委員会という実行組織と、大学評価委員会という評価組織を設けました」。

また、この取り組みのために新設された大学評価室の室長に就任した、社会学部教授の公文 溥氏は、「大切なことは、自主的な教育研究の点検や評価活動を実施し、それを将来的な改善や改革に活かしていくこと」として次のように説明します。

「大学基準協会の観点も、これまでのような報告書の作成や提出だけでなく、各大学が自主的な点検評価活動や改善活動を行っているかどうか、そのシステムを見るという点に変わってきています。これに合わせて、本学としてもシステムを作る必要が生じました。ポイントは、各学部や各大学院研究科、各研究所、そして事務部門が、各事業単位として自主的な改善活動を行い、その集大成として大学全体の改善を実現することです」。

具体的には、法政大学の各学部、研究科などでは、中期的な到達目標を設定後、それを実現するための年度目標を策定。目標に対応した評価を行い、次の改善プランに反映させるという工程を繰り返し進めます。

しかし、各現場が実務を抱えつつ自己点検や追跡調査、そして評価を行うことは容易ではありません。また、対象となるデータも膨大な量におよび、簡単に利用できない



法政大学 校舎



法政大学  
常務理事 法学部教授  
浜村 彰氏



法政大学  
社会学部教授 大学評価室長  
公文 溥氏

形で散在しています。このため、ITを活用することによって容易かつ迅速に情報を活用できるしくみを確立し、これらの作業に関わる担当者の負荷を軽減することが必要になりました。法政大学

では、評価指標を定

め、必要となるデータを収集し、バランス・スコアカードを活用してパフォーマンス分析を行うという一連の工程を想定。新システムの検討が開始されました。

ただし、大学は一般的な私企業とは異なります。バランス・スコアカードを企業が活用する際には、企業の戦略やビジョンを「4つの視点」（財務の視点、顧客の視点、業務プロセスの視点、学習と成長の視点）に分類し、定義する必要がありますが、「学士力の向上」などが目標とされる大学経営にあっては、この「4つの視点」の定義そのものが、議論の対象となることがあります。

しかし、情報メディア教育研究センター 教授の常盤祐司氏は、そこで議論を繰り返す前に「学内に散在しているデータを収集して、公正な判断基準を作るための基礎を作ることが重要」だと説明します。

「教育者が100人居れば、100通りの異なる教育論があり、それをまとめることは困難です。そこで、バランス・スコアカード導入に際しては、データとして収集可能な各種の情報を元にした“客観的な分析および評価の実施が先決”だと考えました。まずは、大学内に散在しているデータの流れをきちんと整理して、自主点検評価活動や改善活動の根拠として、確実に活用できる環境を整えること。データが見えるようになれば、さまざまなことがわかってきます。そこから大学の経営改善に向けた客観的な判断を下すことができるようになるはずです」。

## ■ 以前の課題と導入の経緯

### 必要な機能を「使いやすく」、「低コスト」に提供するシステムを選択

今回のシステム構築において、テクニカルアドバイザーという役割を担った常盤氏が、新システムに求めた主な要件は、下記の3点です。

1. 企業向けソリューションのように、大学にとって不要な機能がついていて高額となるものではなく、適切な機能を、適切なコストで利用できること。
2. 常に変化し続ける大学の要件に合わせて自由に改変ができること。
3. Excel と連携すること。

2005年からシステムの検討が行われる中、KPIによる情報の可視化を前提に、さまざまな製品の評価が行われましたが、常盤氏は、「評価対

象となった多くの製品は、今回の要件から考えれば機能過多で非常に高額なものでした」と話します。さらに、これらの製品は、操作が難しく、ユーザーとなる教職員に対して、長時間の教育が必要となるなど、導入に際してのハードルが高いものでした。

そして、「機能過多」の根拠の1つとして、常盤氏は次のように説明します。

「学内においてどのくらいのレベルでデータを活用するか、と考えると Excel レベルのツールで十分になってきました。“なってきた”と表現したのは、高機能な Excel 2007 が発売されたからです。

それに、多くの大学は、マイクロソフトのボリューム ライセンスプログラムを締結しています。そのため教職員は Microsoft Office を当たり前のように活用しています。Excel をフロントエンドとして利用できれば、新しい基盤を導入しなくても、ほとんどの教職員が手元の PC でデータを活用できます。それが第一です」。

そして、「サーバーも、Excel とシームレスにつながるのが1番望ましい」と考えた常盤氏がデータベースに選択したのが、Microsoft SQL Server でした。

「サーバー側もマイクロソフト製品であれば確実にシームレスなシステムにできるはずですし、何かトラブルが起きた際にも、問い合わせ先はマイクロソフト1社で済みます。そこで、いろいろと調べた結果、マイクロソフトの SQL Server 2008 も、かなり機能アップしていることがわかり、Excel と連携して上手く動かす目途がつかしました。それから実際導入するにあたって、値段が高いと当然導入できないわけですが、割合リーズナブルな値段で導入できることもわかりました。また、大学を取り巻く環境の変化に応じてシステムも随時変更していかなければなりません、Visual Studio で提供される開発環境を使えば、大学でもある程度のシステム改変なら対応できると考えています」。

サーバーについては、提供機能とクライアントとのシームレスな連携が決め手となりました。

常盤氏は、「今回のプロジェクトは、私の研究の一環とも言えますが、この研究では、大学のパフォーマンスをいかに測定するということが重要なポイントとなります。バランス・スコアカードはそのための1つの方法論でした。SharePoint Server に搭載された PerformancePoint Services は、まさにこの機能を実現できるものです。さらに、必須要件としてあげた、文書管理機能、RSS 機能、携帯電話連携機能を、SharePoint Server が満たすことができる点も評価につながりました。別の視点では、Excel をクライアントとして使用することが先行して決定していたため、マイクロソフトのサーバー製品を使用すれば、シームレスな統合が可能となり、トラブル発生時の切り分けなども不要になると考えました」と話します。2005年から継続していた選定作業は、マイクロソフト製品の採用決定により、2008年3月で終了し、これらの製品をベースとしたシステム開発がスタートしました。

## ■ システム概要

### Web サービスとの連携で集取したデータを Office SharePoint Server 上で分析、情報として「可視化」

大学のパフォーマンス評価に向けた「見える化」を目指す新システムは、Windows Server 2008 Enterprise(X64)上で稼働する、Microsoft Office SharePoint Server 2007(以下、SharePoint Server)と Microsoft SQL Server 2008 Enterprise の2つのサーバーから構成されています。クライアント側は、Microsoft Office Excel 2007を使用します。パフォーマンス分析のコア機能については、今回、SharePoint Serverの機能の1つとして組み込まれた PerformancePoint Services for SharePointを使用します。本サービスは、パフォーマンス管理に必要なスコアカード、ダッシュボード、管理レポート、分析、予測、連結などすべての機能を網羅しています。

収集するデータと KPI については、プロジェクトの進行に合わせ検討が進んでいます。

これらの収集データについて常盤氏は、「法政大学は、データ連携に関してはかなり先進的な状況にあります。2007年からWebサービスを使用したデータ連携を行っており、毎日100MB以上のデータがやり取りされています。マイクロソフト製品は、Webサービスへの対応を早くから行っており、このようなデータ収集が必要となるシステムでは大きな優位性があると思っています」と話します。

SharePoint Serverは、既存のCMS(コース管理システム)、SIS(学生情報システム)、図書館システムなどと連携し、パフォーマンス評価に使用するデータを収集します。

今回のシステム開発を担当した株式会社クロスキャット 営業統括部 戦略コンサルティング部 シニアコンサルタント岩本禎史氏は、システム開発におけるマイクロソフト製品の優位性について、「情報収集に関しては、SQL ServerのIntegration Servicesを利用すると、かなり効率よく対応できます。また、情報を見せる段階では、PerformancePoint ServicesおよびSQL ServerのReporting Servicesが活用できます。このように、製品の連携によってカバーできる機能範囲が広いところが、マイクロソフト製品による開発の優位性と言えるでしょう」と話します。また、岩本氏は「それに、バランスト・スコアカードの作り込みも容易な

ため、話し合いをしながら構築し、構築後にまた検討を行い、修正を加えていくということも容易です。これも大きなポイントだと思います」と続けます。

常盤氏は、新システムの利用イメージについて「注目するKPIの状況が一望できるコックピット」と表現します。

「たとえば、大学で何を学んできたかという学士力、また、研究力、社会貢献力、さらには、学科別志願者数、合格者数、入学者数などがグラフを使った直観的なイメージで表示されるコックピットが実現できるでしょう」(常盤氏)。

2009年7月より開始されたフェーズ1の開発作業は9月に完了。大学評価室、総長室、そして学務部に向け「現状のデータを可視化する」機能がサービスインする予定となっています。



法政大学  
情報メディア教育研究センター  
教授  
常盤 祐司氏



株式会社クロスキャット  
営業統括部  
戦略コンサルティング部  
シニアコンサルタント  
岩本 禎史氏

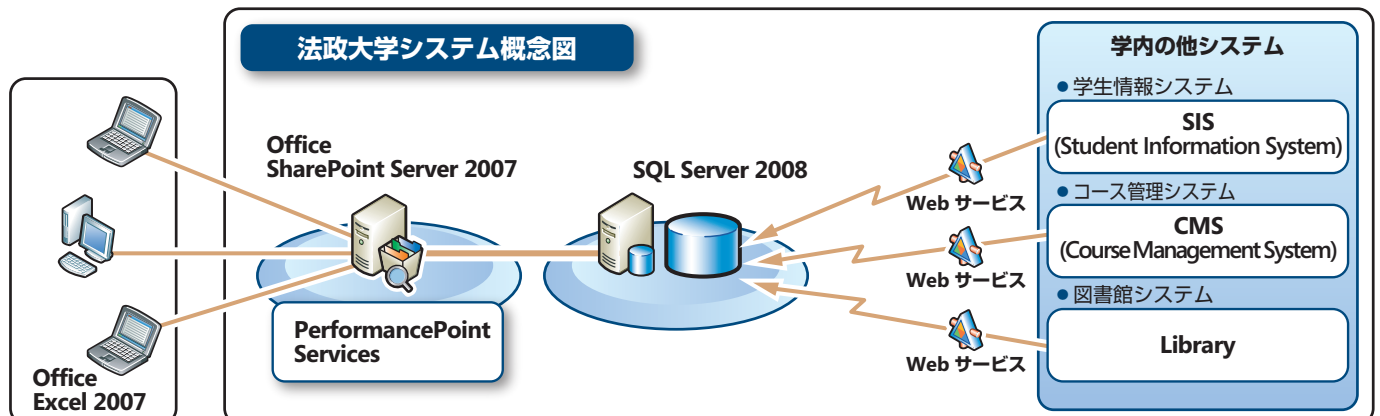
## ■ 今後の展望

### 経営の立場で必要となる情報に簡単にアクセス、効率化と共に意思決定の品質向上を図る

法政大学におけるバランスト・スコアカードの活用は、まだ始まったばかりです。しかし、マイクロソフト製品を基盤とした「新システムへの期待は大きい」と、浜村氏は話します。

「大学経営の立場で日常的に必要な情報に対し、簡単にアクセスできるというメリットは非常に大きいと考えます。たとえば、入学者について今年は何の都道府県からの受験者が多いか、どの高校の受験者が多いか、指定校推薦の状況はどうか、など大学全体としての戦略立案に役立つ情報に、自分のパソコンからダイレクトにアクセスできることは、経営を考える上でも大きな利点となります」。

公文氏も、大学評価室の立場から次のような期待を話します。



「今回のシステムは、学部長、研究科長、事務部長などが対象となります。これらの利用者が、到達目標を設定し、評価を加え、次の改善目標を設定するために使用するデータを提供することが、評価室の役割となります。このような立場の方々が、これまで自分で探しまわらなければ収集できなかったデータを、新システムにアクセスすれば簡単

に取得できることは非常に大事なことだと思います。効率化に加え意思決定の品質向上が図れると期待しています」。

教学改革を進め、積極的に自主点検評価活動や改善活動を展開する法政大学。同学におけるパフォーマンス評価の要として、マイクロソフトのソリューション製品が活用されています。

#### 導入についてのお問い合わせ

本ケーススタディは、インターネット上でも参照できます。<http://www.microsoft.com/japan/showcase/>  
本ケーススタディに記載された情報は制作当時(2009年8月)のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。  
本ケーススタディは、情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。  
製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。

■インターネット ホームページ <http://www.microsoft.com/japan/>  
■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755  
(9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 19:00 土日祝日、弊社指定休業日を除く)  
※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

Microsoft、Microsoft ロゴ、Excel、PerformancePoint、SharePoint、SQL Server、Windows Server は米国 Microsoft Corporation および / またはその関連会社の商標です。  
その他記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。

マイクロソフト株式会社 〒151-8583 東京都渋谷区代々木2丁目2番1号 小田急サザンタワー